

挑

自分から1歩

戦

1, 2の3歩

床

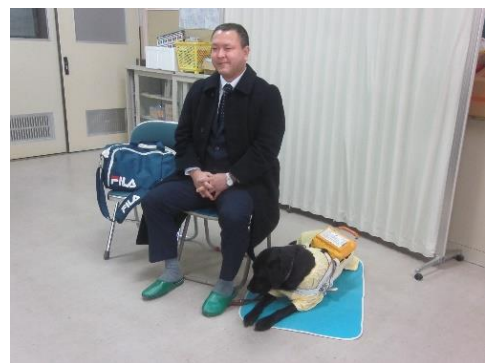
なかまと3歩

援

できることから始めよう！

齋藤晃司さん・フレデリカちゃんとの交流

2月24日に盲導犬ユーザーの齋藤晃司さんに来ていただき、盲導犬についてのお話を聞かせていただきました。新型コロナウイルス感染症拡大による「蔓延防止等重点措置」により1回目は延期、そして今回もオンラインでの出会いとなってしまいました。それでも齋藤さんは、本当に熱い思いで語って下さいました。そこにはすす小3年生のみんなへ、どうしても伝えたい大切なメッセージがこめられているからだと思います。齋藤さんは、盲導犬フレデリカの誘導で登場されました。持ってきていただいた数々のメダルも、見せていただきました。みんなは手にとって、その重みを感じることができました。齋藤さんは、「盲導犬は何でもできるわけではない。」とおっしゃいました。また、「盲導犬は目の不自由な人の目の代わりになって仕事している」ことや「盲導犬を育てるのはとても大変で、大切にしなければならないこと」をお話しされました。「仕事」なのですが、それをいやいややっているわけではなく、楽しみながらやっているとおっしゃっていました。また、齋藤さん自身が「工夫すれば、何でもできる！」という思いを持って、数々の夢を実現してきたお話も聞かせていただきました。齋藤さんの横で静かに座って「仕事」をする盲導犬フレデリカを見て、盲導犬ユーザーの方と盲導犬の心がつながっていることが伝わってきました。



〇感想

- どんなことでも工夫して、大変なことも乗り越えて、努力し続けることの大切さがわかりました。
- パラリンピック銀メダリストに出会えてよかったです。銀メダルを触るととても重くてびっくりしました。
- わたしは、「世の中に不可能はない。」という言葉がささりました。もしも、一人でできなかつたら、みんなと一緒にやろうと思います。
- 僕も前向きに、状況に応じてやっていけるように、がんばっていきたいと思いました。

アイマスク体験

「アイマスク体験」をしました。アイマスクをした人は友だちの言葉を頼りに迷路をすり抜け、ゴールへと帰ってくるようにしました。最初は、白杖の代わりに傘を渡すのにも一苦労でしたが、だんだんとうまく指示が出せるようになっていました。寄り添う友だちのおかげで、不安な中でも1歩踏み出すことができました。

